

# 校門坂

～ 輝く薩摩中央 ～

令和元年6月3日（月） 南日本新聞

本校の梨の新しい栽培について、南日本新聞に掲載されましたので紹介します。



ナシの苗木を世話する果樹班の生徒  
＝さつま町の薩摩中央高校

## 薩摩中央高

# ナシ苗木栽培に挑戦

県内の農業系高校で唯一ナシ園を持つ、薩摩中央高校（さつま町）の3年生5人が、地元ナシ農家へ提供する苗木の育成に挑戦している。作業の簡略化を図れる、新しい栽培技術の普及が狙い。「生産者の負担を減らし、産地の活性化に貢献したい」と意気込む。

## 作業簡略化の 新技術普及へ 地元へ還元

さつま町は霧島市に次いで県内2番目のナシ産地。2005年には21戸が10・2畝で生産していたが、高齢化が進み、今年は10戸約5畝とそれぞれ半分に

### Q&A

ジョイント仕立て

神奈川県が2012年にナシ、ウメで特許を取った栽培法。一定の間隔で植えた苗木を柵の下で水平に曲げ、連続的に接ぎ木して集合樹にする。主枝（しゅし）が従来より早く太くなり、ナ

減った。

危機感を覚えた生産者は「ジョイント仕立て」に注目。接ぎ木による栽培法で、省力・低コスト化が見込める。しかし、従来の倍近い全長3・3畝を超える大きな苗をそろえる必要があり、普段の作業と並行して、水やりなどの苗木管理を行う負担は大きい。

町農政課も普及を目指しており、同校の廣瀬将孝教諭（ひろせまさたか）は生物生産科果樹班による育苗を提案。昨秋、豊水や幸水など4品種100本をポットに植え付け、ハウス2棟で栽培

シ園が安定的に出荷できる状態になるまで10年近くかかっていた期間を半減できるという。加えて、木が直線状につながることで枝切りや摘果、収穫作業の効率化が見込める。鹿児島県内では霧島市の農家を中心に19戸が研究会をつくり導入を進めている。

を始めた。生徒は追肥などの傍ら、畝の高さや土壌の違いによる育ち具合も調べている。

5月下旬には目標の高さの5、6割まで成長した。上大迫愛さんと長野可奈子さんは

「農家の生産に直接関わる研究。責任を感じる」と意気込みを語る。提供先は、樹勢が衰えた木の植え替えを進める町内の農家。順調に育てば、秋には渡す予定だという。

（本坊弓子）